

○概要

IB歴史では、過去の出来事を多面的に探求し、批判的思考を育てることを目的としています。生徒は多様な視点から歴史を学び、世界的な問題を理解する能力を養います。

○特色

1. 6つの主要概念「原因、結果、変化、連続性、観点、重要性」に重点を置く。
→出来事を、多角的に分析することで歴史理解を促進する。
2. 政治、経済、社会、文化などの広範なテーマを扱う。
→特定の国の歴史だけでなく、多岐にわたるテーマから考えることができる。
3. 詳細な研究と批判的思考を推進する。
→教科書に基づいた知識の習得だけでなく、一般書籍などを読み、批判的に思考することを重視し、分析力を育成する。
4. 国際的な視野を育成する。
→国単位の歴史だけでなく、国際的な視点から学び、グローバルな視点を養う。
5. 多様な評価方法を採用している。
→定期テストや一発試験ではなく、エッセイや内部評価(IA)など多様な観点で評価される。

○SL、HLの共通点と相違点

共通点：

- 指定学習項目「世界規模の戦争への動き」
- 世界史トピック「20世紀の戦争の原因と結果」、「冷戦:超大国間の緊張と対立」
- IAを執筆する。

相違点：

- HLはHL地域選択項目である「中華人民共和国」や「アジアの冷戦」、「20世紀の日本」も履修する。

○最終評価物

- Paper 1
→史料分析
提示された歴史資料に対して、何を読み取れるかを記述する
- Paper 2
→論述式問題①
出された抽象的な問いに対し、自分の知識を活用し回答をする。
- Internal Assessment
→「歴史研究」
自分で選択したトピックに関する歴史研究を論文で執筆する。
- Paper 3 (HLのみ)
→論述式問題②
出された具体的な問いに対し、自分の知識を活用し回答をする。

Paper1の授業について、次ページで詳しく説明！



~Paper1で取り扱う範囲~

横浜国際高校の国際バカロレアでは、「東アジアにおける拡張政策」と、「ドイツとイタリアの拡張政策」を取り扱う。

~Paper1の問題形式~

- 文書資料の読み解き。
- 図像史料の読み解き。
- ある史料の価値と限界。
- 2つの史料の比較と対比。
- 問いに対して答えるエッセイ。

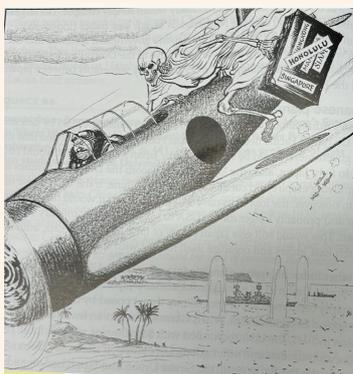
~Paper1の授業の流れ(例)~

①各々の班が、教科書の担当範囲から文書・図像史料を2つ選び、問題を2つ作成します。

②担当の班が問題に関する模範解答(mark scheme)を作成する。

③作った問題をクラスメイトに出題し、答え合わせ。

④クラス全体でディスカッションを行い、疑問を解消する。先生に知識の整理や考え方の指導を行っていただく。



↑問題の例

“死は休暇を取る”
1941年12月9日付『デイリー・メール』紙に掲載された漫画。デイリー・メール紙は1896年から発行されているイギリスの新聞である。

問1
史料はどのようなメッセージを伝えているのだろうか



↑マークスキーム(解答)の例

Mark Scheme

<読み取れること>
・飛行機に日本国旗の日の丸があることから日本の飛行機である。
・ヤシの木があることや入り組んだ湾があることから真珠湾であるとわかる。
・後ろに他にも小さい飛行機が飛んでいる
・骸骨が飛行機の後ろについている
・骸骨が持っているアタッシュケースに後の日本が攻撃する地名が書かれている。

<メッセージ>
・真珠湾に日本の飛行機が攻撃しに行こうとしているところである
→太平洋戦争の始まりを示唆している
・アタッシュケースに地名
→その後日本が進出、攻撃しようとしていることを示唆している

○書いた人のプチコメント

中学校の時と違い、二つの出来事(例えば、第一次世界大戦とヒトラーの台頭など)の相関関係について深く勉強を進めていくので、とても楽しいです!

出来事、事象だけに焦点を置くのではなく、当時の大衆による風刺画や、国際関係等の多角的な面から分析します。そのため、事象の暗記だけでなく、個々の事象のつながりとストーリー性を持って歴史を学ぶことができ、過去と現在の結びつきを感じることが出来ます。